

◆ 1. 「進化経済学におけるあなたの問題関心に当てはまるものを次のキーワードから選んでください」(複数回答可、5つまで)

順位	項目	得票	割合
1	イノベーション(革新)と模倣	12	7.5 %
2	技術進歩	10	6.3 %
3	制度	9	5.7 %
3	景気循環	9	5.7 %
5	多様性	8	5.0 %
5	慣習・規範	8	5.0 %
7	不確実性	7	4.4 %
7	自己組織性	7	4.4 %
9	経路依存性	6	3.8 %
9	地域通貨	6	3.8 %
11	経済成長	5	3.1 %
11	制度設計	5	3.1 %
11	信頼	5	3.1 %
11	複雑性	5	3.1 %
11	自生的秩序	5	3.1 %
11	定型行動(ルーティン)	5	3.1 %
17	ネットワーク外部性	4	2.5 %
17	企業家精神	4	2.5 %
17	ソーシャル・キャピタル	4	2.5 %
20	創造的破壊	3	1.9 %
20	フラクタル	3	1.9 %

20	満足化原理	3	1.9 %
20	マイクロ・マクロ・ループ	3	1.9 %
24	プラットフォーム	2	1.3 %
24	ベキ則分布	2	1.3 %
24	学習	2	1.3 %
24	収穫逡増	2	1.3 %
24	競争(生存闘争)	2	1.3 %
24	カオス	2	1.3 %
24	系統発生	2	1.3 %
24	ダーウィニズム	2	1.3 %
24	均衡(ナッシュ均衡、複数均衡)	2	1.3 %
33	暗黙知	1	0.6 %
33	選択(淘汰)	1	0.6 %
33	ハイパーインフレーション	1	0.6 %
33	進化的安定戦略 ESS)	1	0.6 %
33	情報・知識	1	0.6 %
38	突然変異	0	0.0 %
38	個体発生	0	0.0 %
38	ミーム(文化子)	0	0.0 %
38	遺伝子	0	0.0 %
38	ラマルキズム	0	0.0 %
38	遺伝型・表現型	0	0.0 %
38	(最)適者生存	0	0.0 %
合計		159	

◆ 2. 「あなたの取っている主たる研究手法は何ですか」(複数回答可、3 つまで)

順位	項目	得票	割合
1	文献考証	15	20.3 %
2	歴史研究	12	16.2 %
3	実証分析	10	13.5 %
4	マルチ・エージェント・シミュレーション	6	8.1 %
5	システム・ダイナミクス	5	6.8 %
6	計量経済学	4	5.4 %
7	実験経済学	3	4.1 %
7	進化ゲーム論	3	4.1 %
7	弁証法	3	4.1 %
10	個体群動学(ポピュレーション・ダイナミクス)	2	2.7 %
10	行動経済学	2	2.7 %
10	社会実験	2	2.7 %
10	批判的实在論	2	2.7 %
10	比較制度分析	2	2.7 %
15	人工市場(U-マート等)	1	1.4 %
15	遺伝的アルゴリズム	1	1.4 %
15	非線形動学	1	1.4 %
18	リプリケータ・ダイナミクス	0	0.0 %
合計		74	

◆ 3. 「進化経済学が長所を持っているという研究分野はどのようなものだと思いますか」(複数回答可、2つまで)

順位	項目	得票	割合
1	他の社会科学との学際研究	11	15.7 %
2	経済思想・学説史	8	11.4 %

2	制度分析	8	11.4 %
2	自然科学との学際研究	8	11.4 %
5	経済成長理論	7	10.0 %
6	経済体制論	6	8.6 %
6	産業分析	6	8.6 %
8	企業分析	3	4.3 %
8	経済学方法論	3	4.3 %
8	分配理論	3	4.3 %
8	空間貨幣論	3	4.3 %
12	価値論・価格理論	2	2.9 %
13	政策分析	1	1.4 %
13	都市・空間経済学	1	1.4 %
15	国際経済	0	0.0 %
合計		70	

◆ 4. 「あなたが考える社会・経済進化概念に一番近いものを選んでください」(2つまで)

順位	項目	得票	割合
1	秩序・制度の生成・変化	20	32.3 %
2	累積的变化	11	17.7 %
2	知識・情報の発見・伝達	11	17.7 %
4	多様性・複雑性の保持	9	14.5 %
5	技術・製品の進歩	6	9.7 %
6	ネットワークの進化	5	8.1 %
合計		62	

◆ 5. 「以前はどのような研究をなさっていて、どうして進化経済学を研究するようになったのですか？」
(100字以内)

No	投票日時	内容
23	2005/09/14 15:27	ミクロ、マクロ経済学、経営学の流れに満足できずに
22	2005/09/14 15:24	現状の分析と経済理論の分析枠組みとの乖離
21	2005/09/14 15:19	現状の中小企業や歴史的実証研究を行っておりますが、何か新しいヒントを得られればと思っております。
20	2005/09/01 13:09	①従来の計量経済学以外の手法による景気予測手法の開発、②景気の先行きが不透明な状況下での企業経営、③株式市場の分析などの研究を通して、「経験学習による予知能力」、「複雑系」に興味を持ったため
19	2005/08/29 16:46	マルクス経済学の閉塞性や狭隘性と新古典派の帝国主義的な普遍主義や数理主義崇拜の双方に批判的になり、新たな方向を模索してきた結果として進化経済学に辿り着いた。
18	2005/08/26 16:23	学説史研究。テキストの理論構造を具体的に記述すると、結果的に定型行動主体の構成する相互作用系になり、新古典派のフォーマットと合わなくなったため。
17	2005/08/25 17:26	経済体制論から制度経済学を構想していたが、その過程で進化的視点が重要なことに気づき、同時並行的におこなっていた学史・思想史的研究と結びつくようになった。
16	2005/08/15 22:52	T.Veblen の経済学に興味を持ったことから、「進化的経済学」を知った。
15	2005/08/15 13:18	以前中国の内陸部開発を研究していましたが、他国および他地域との比較を考えているうちに、改革の背景となる体制移行論に関心が移ってきました。
14	2005/08/14 19:22	マルクス経済学とケインズ経済学において制度と有効需要原理との関係を研究した結果です。
13	2005/08/12 18:35	以前から地域通貨の歴史や仕組みなどに興味を持ち、研究していました。その地域通貨が進化経済学という大きな枠組みで捉えられていることを知り、進化経済学の研究にも興味・関心を持つようになりました。
12	2005/08/09 14:25	修士1年の時に進化経済学会が発足したので、進

		化経済学以前の研究経験は無い
11	2005/08/09 01:23	大学生当時より、歴史に興味を持ち、マルクス歴史学に変わるグランドセオリーを構築したいと思っていた。そこに進化経済学という学問が登場し、歴史科学(=経済史)の理論的な議論が出来るかもと思ったため
10	2005/08/01 12:18	分業論と収穫逓増をベースとした経済発展・開発問題から出発し、技術進歩、技術移転へと関心を広げ、さらにそこから産業集積と都市化、都市集積パターンの自己組織化へと進んでいった。
9	2005/07/29 10:05	大学院ではマイクロ/マクロのコースワークを受講していたのですが腑に落ちず、経済思想を研究していました。現在は企業に所属していますが現場の観点から経済学への発言をしたいと思い勉強させて頂いています。
8	2005/07/29 05:06	ポストケインズ派経済学の景気循環論、貨幣経済論を研究していて、ヴェブレン等の制度派経済学にも関心があった。
7	2005/07/24 16:38	長らく実験化学研究者として学会活動をしてきましたが、その後技術革新の経済学に専念して15年、技術畑の経験者として貢献したいと思っています
6	2005/07/22 00:34	アメリカ経済の歴史研究から制度進化論アプローチに興味を持つようになる。
5	2005/07/21 10:46	エネルギー需要の解析を行っており、個々の需要家の振る舞いがどのように相互作用しながらマクロの挙動になるのかを追跡できる手法がないかと探索して。
4	2005/07/20 17:38	以前は TFP 成長率および研究開発投資の収益率を計測していた。しかし実証と理論の不一致と、生産性低迷が成長率鈍化をもたらすインプリケーションに疑問を感じ、成長低迷は飽和需要による説明が自然と考えるに至った。2001 年の Ulrich Witt 教授編纂による Journal of Evolutionary Economics の特集号に感銘を受けた。
3	2005/07/19 15:45	金融市場における、市場参加者の認知枠組みの進化に関心を抱いていたから。
2	2005/07/18 10:36	制度の変遷に興味があった。制度が変わると経済主体の行動が変わる、これは主流派ではうまく記述できないと思ったから。最近は主流派でもある程度のが出来ると思っている。

1	2005/07/17 14:24	マクロ経済理論を研究、IS-LM モデルに不満を感じ、空間貨幣論、地域 IS バランス、ネットワーク進化マクロ経済理論の構築を目指しているため。
- <Page.1/1> -		




















◆ 6. 「進化経済学会の他にどの学会に所属していますか」(複数回答可)

順位	項目	得票	割合
1	経済学史学会	11	19.0 %
2	日本経済学会	7	12.1 %
3	経済理論学会	6	10.3 %
4	該当なし	5	8.6 %
5	日本国際経済学会	3	5.2 %
5	社会思想史学会	3	5.2 %
5	欧州進化経済学会 (EAEPE)	3	5.2 %
5	国際シュンペーター学会	3	5.2 %
5	社会・経済システム学会	3	5.2 %
10	経済社会学会	2	3.4 %
10	日本金融学会	2	3.4 %
10	JASAG	2	3.4 %
13	Economic Science Association	1	1.7 %
13	日本公共政策学会	1	1.7 %
13	地域公共政策学会	1	1.7 %
13	社会政策学会	1	1.7 %
13	アジア政経学会	1	1.7 %
13	数理社会学会	1	1.7 %
13	エントロピー学会	1	1.7 %
13	日本地域学会	1	1.7 %

21	日本会計研究学会	0	0.0 %
21	日本経営学会	0	0.0 %
21	日本統計学会	0	0.0 %
合計		58	

◆ 7.「あなたにとって進化経済学の上で参照すべきは誰の議論ですか？括弧内は代表的著作」(複数回答可5つまで)

順位	項目	得票	割合
1	シュンペーター(『経済発展の理論』)	14	9.6 %
2	ケインズ(『一般理論』)	9	6.2 %
2	ネルソン&ウインター(『経済変化の進化理論』)	9	6.2 %
4	ハイエク(『個人主義と経済秩序』『法と立法と自由』)	8	5.5 %
4	アーサー(『収穫逡増と経路依存』)	8	5.5 %
6	ヴェブレン(『有閑階級の理論』『なぜ経済学は進化的科学ではないのか』)	7	4.8 %
6	カルドア(『経済成長と分配理論』)	7	4.8 %
8	パシネッティ(『構造変化と経済成長』)	6	4.1 %
8	サイモン(『システムの科学』)	6	4.1 %
8	メイナード=スミス(『進化とゲーム理論』)	6	4.1 %
8	ホジソン(『進化と経済学』)	6	4.1 %
12	ダーウィン(『種の起源』)	5	3.4 %

12	ノース(『制度・制度変化・経済効果』)	5	 3.4 %
14	今西錦司(『私の進化論』)	3	 2.1 %
14	コース(『企業・市場・法』)	3	 2.1 %
14	コニリス&プリゴジン(『散逸構造』)	3	 2.1 %
14	コモンズ(『制度経済学』)	3	 2.1 %
14	ルーマン(『社会システム理論』)	3	 2.1 %
14	マルクス(『資本論』)	3	 2.1 %
20	マーシャル(『経済学原理』)	2	 1.4 %
20	ラマルク(『動物哲学』)	2	 1.4 %
20	ローゼンバーグ(『技術に関する諸観点』)	2	 1.4 %
20	クルーグマン(『経済地理学』)	2	 1.4 %
20	カウフマン(『自己組織性と進化の論理』)	2	 1.4 %
20	グールド(『個体発生と系統発生』)	2	 1.4 %
20	ナイト(『危険・不確実性および利潤』)	2	 1.4 %
20	ヴィット(『進化する経済』)	2	 1.4 %
20	プリゴジン&スタンジェール(『混沌からの秩序』)	2	 1.4 %
29	アグリエッタ(『資本主義のレギュレーション理論』)	1	 0.7 %
29	アルチャン(『不確実性、進化および経済理論』)	1	 0.7 %
29	ウィリアムソン(『市場と』)	1	 0.7 %

	企業組織』)		
29	ウィルソン(『社会生物学』)	1	0.7 %
29	フリーマン(『イノベーションの経済学』)	1	0.7 %
29	スラッファ(『商品による商品の生産』)	1	0.7 %
29	マルサス(『人口論』)	1	0.7 %
29	メンガー(「貨幣の起源について」『一般理論経済学』)	1	0.7 %
29	ローズビー(『知識, 制度および経済学の進化』)	1	0.7 %
29	ローソン(『経済学と実在』)	1	0.7 %
29	オドリスコル&リッツオ(『時間と無知の経済学』)	1	0.7 %
29	D.ハミルトン『進化論的経済学』)	1	0.7 %
29	アンデルセン『進化的経済学』)	1	0.7 %
29	ボールディング『社会進化の経済学』)	1	0.7 %
43	メトカフ(『進化経済学と創造的破壊』)	0	0.0 %
43	ドシ(『技術変化と産業の推移』)	0	0.0 %
43	ボワイエ(『レギュレーション理論』)	0	0.0 %
43	スチュアート(『カオスの世界像』)	0	0.0 %
43	スペンサー(『第一原理』)	0	0.0 %
43	ドーキンス(『利己的な遺伝子』)	0	0.0 %

合計	146
----	-----

◆ 8. 「あなたが大学生に進化経済学を紹介する時にどの文献を紹介しますか？ひとつ挙げてください」

No	投票日時	内容
21	2005/09/14 15:30	ネルソン&ウインター『経済変化の進化理論
20	2005/09/14 15:24	ホジソン『進化と経済学』
19	2005/09/01 13:09	伊庭・福原「複雑系入門」(NTT)
18	2005/08/31 18:21	ネルソンウインター「経済変化の進化理論」
17	2005/08/29 16:46	進化経済学のフロンティア
16	2005/08/25 17:26	ボールディング『社会進化の経済学』
15	2005/08/15 22:52	Allan G. Gruchy, Modern Economic Thought: The American Contribution (New York: Augustus M. Kelley-Publishers, 1967.)
14	2005/08/14 19:22	井上義朗『エヴォリュショナリー・エコノミクス』
13	2005/08/12 18:35	なし。
12	2005/08/09 14:25	適当な文献がない
11	2005/08/01 12:18	P. クルーグマン『自己組織化の経済学』
10	2005/07/29 10:36	ホジソン(『進化と経済学』)
9	2005/07/29 10:05	『進化経済学のフロンティア』
8	2005/07/29 05:06	「進化経済学とは何か」
7	2005/07/24 16:38	Coombs et a., 'Economics and Technological change', MacMillan
6	2005/07/22 00:34	日本語で読める良い本がない。
5	2005/07/20 17:38	Structural Change and Economic Dynamics は商品やエージェントの多様性が所得の成長や循環をもたらすという意味で、進化経済学会に近いアプローチだと思う。
4	2005/07/19 15:45	ネルソン&ウインター『経済変化の進化理論』
3	2005/07/18 10:36	アンデルセン, 『進化的経済学』

2	2005/07/18 02:02	ホジソン『現代制度派経済学宣言』
1	2005/07/17 14:24	ケインズ「インドの通貨と金融」
- <Page.1/1> -		

◆ 9. 「進化経済学とはどのような学問であると考えますか？」(100字以内)

No	投票日時	内容
26	2005/09/14 15:30	経済の内生的変化を分析的に解明して、経済の認識の深化と政策への適用を考える経済学
25	2005/09/14 15:27	社会科学と自然科学のかかわりを進める
24	2005/09/14 15:24	経済システムあるいは経済秩序の変化を説明する経済理論
23	2005/09/14 15:19	新しい世界経済の展開(IT、グローバル、分配の問題等)について、新しい思想を作ること、新しい制度を提示すること。
22	2005/09/01 13:09	既存の経済学(新古典派など)のフレームワーク、特に効用や利潤の最大化によってミクロ行動を説明しようという一元的発想には疑問を持っていますが、代替関係にあるのではなく補完関係にある学問だと考えています。例えば既存の経済学にはなかった揺らぎをもつ定常性などのような異なる角度からの分析に挑むべきです。また、手法としても20世紀的な数学・工学的手法では分析しにくい経済のテーマに対し、生命・生態系、熱力学系、心理学、実験などの新しい発想を取り入れて多方面からアプローチをするべきではないでしょうか。
21	2005/08/31 18:21	オルタナティブな経済システムに対する政策論の提示が可能な学問
20	2005/08/29 16:46	実態としては、新古典派を中心とする正統派への異端派諸派の連合体だが、新古典派ハードコアを批判しつつ、他の社会科学や自然科学の知見を取り入れて、社会経済を総合的・歴史的に考察し、政策や価値を提示していく学問。
19	2005/08/26 16:23	巨大な経済社会システムは不可逆な時間の中でどのように維持され、どのように実際に動作しているのか、最適化+市場均衡という枠組みを離れ、有限能力の経済主体からボトムアップに構築されるモデルの動作を通じて、構成的に理解しようとする学問。
18	2005/08/25 17:26	決定論と偶因論の対立を止揚し、情報とエネルギーを含む

		力動的世界に適合した総合的科学。
17	2005/08/15 22:52	経済制度の進化過程を無目的論的累積的変化過程として理解する学問。
16	2005/08/15 13:18	あるべき形態や均衡の結果として到る形態を特定する学問ではなく、常にありえる形態を模索し続ける学問
15	2005/08/14 19:22	制度を与件とするのではなく、解明されるべき対象として捉える学問だと思います。
14	2005/08/12 18:35	長年にわたり経済学者たちが形成してきた経済学の理論や歴史に対して現代の事実との整合性を考え、さらに新たな理論や歴史的意義を確立していくものである。
13	2005/08/09 14:25	「経済現象を『異質な行動主体による情報収集→判断→行動の結果が集積したもの』として、その発生過程と結果を分析する」アプローチ。
12	2005/08/09 01:23	新古典派的な均衡概念＝パレート最適を越えた、もっと自我の葛藤のある世界の叙述。 その一つには、Nash のゲーム理論に分かり易い解釈を与える作業も必要である。
11	2005/08/01 12:18	要素還元論的な手法から脱し、個と個の相互作用がマクロパターンの形成とその進化に及ぼす影響について探る学問。
10	2005/07/29 10:36	市場、政府、市民社会の全体に目くばりをしながら、多様な制度の進化を多様な手法で明らかにしていく。
9	2005/07/29 10:05	主流派経済学はアメリカの学会主体でシステムが出来上がっており、個別分野の先行研究に沿った研究となりがちで破壊的創造が困難であるのに対して、進化経済学は複雑性のプールの中から自生的に新しい研究の流れができるシステム基盤として持つというイメージ。
8	2005/07/29 05:06	経済・社会制度の進化過程を研究する学問
7	2005/07/24 16:38	イノベーションパラダイムの進化とその累積によって経済が進化、発展する過程を明らかにする学問
6	2005/07/22 00:34	制度進化により人間の社会を少しでもましなものに変革していくための学問。
5	2005/07/20 17:38	エージェント(選好や労働供給の質)にしても商品(生産資源や需要の所得弾性)にしてもそれぞれ同質ではない。進化経済学会は、エージェント・商品の異質性こそがマクロ経済指標の循環・成長を説明しうることを示す役割がある。
4	2005/07/19 15:45	自然秩序における進化と社会経済現象における進化の共通点や相違点の中から

		新しい知見を見だし、体系化していく学問。
3	2005/07/18 10:36	学習・進化する経済主体の相互作用から得られる結果を経済・社会構造の再生産の議論と結合させる学問
2	2005/07/18 02:02	動的な変化の過程を分析する学問であって、特定の手法(シミュレーションなど)にとらわれるものではない。
1	2005/07/17 14:24	時間、空間と貨幣の再発見。ネット進化マクロから見た日本経済の分析。「金融津波」避難マニュアルの基礎理論。ネットワーク進化マクロ経済理論の構築。
- <Page.1/1> -		

◆ 10. 「あなたの年齢は」

順位	項目	得票	割合
1	30代	12	37.5 %
2	20代	7	21.9 %
3	50代	6	18.8 %
4	40代	5	15.6 %
5	60代	1	3.1 %
5	70代	1	3.1 %
7	10代	0	0.0 %
7	80代	0	0.0 %
7	それ以上	0	0.0 %
合計		32	

◆ 11. 「あなたの性別は」

順位	項目	得票	割合
1	男性	32	100.0 %
2	女性	0	0.0 %
合計		32	

◆ 12. 「あなたの所在地は」

順位	項目	得票	割合
1	関東	11	34.4 %
2	北海道	8	25.0 %
3	関西	7	21.9 %
4	東北	2	6.2 %
4	中国	2	6.2 %
6	北陸	1	3.1 %
6	九州	1	3.1 %
8	東海	0	0.0 %
8	中部	0	0.0 %
8	四国	0	0.0 %
8	沖縄	0	0.0 %
8	アジア	0	0.0 %
8	ヨーロッパ	0	0.0 %
8	北米	0	0.0 %
8	南米	0	0.0 %
8	オセアニア	0	0.0 %
8	アフリカ	0	0.0 %
合計		32	

◆ 13. 「あなたの所属と身分は」(2つ)

順位	項目	得票	割合
1	経済学系	25	41.7 %
2	大学院生	9	15.0 %
3	大学教授	7	11.7 %
4	大学助教授	4	6.7 %
5	大学講師	3	5.0 %

5	自然科学系	3	5.0 %
5	会社員	3	5.0 %
8	民間研究員	2	3.3 %
9	経営学系	1	1.7 %
9	その他社会学系	1	1.7 %
9	大学助手	1	1.7 %
9	学術振興会 PD	1	1.7 %
13	大学生	0	0.0 %
13	Ph.D	0	0.0 %
13	PD	0	0.0 %
合計		60	

◆ 14. 「進化経済学会にどの程度参加していますか」

順位	項目	得票	割合
1	ほぼ参加している	15	48.4 %
2	まあまあ参加している	7	22.6 %
3	あまり参加していない	6	19.4 %
4	ほとんど参加していない	3	9.7 %
合計		31	

◆ 進化経済学、進化経済学会についてコメントがあれば、ご記入ください。

No	投票日時	内容
13	2005/09/14 15:24	議論がかみ合っていない
12	2005/08/31 18:21	進化経済学会では文理が共存して研究を進めていく環境が整っており、その意味ではほかの経済学の学会にはない利点を持

		<p>っていると思う。しかしながら研究の手法や研究成果において協力関係がしかれているとは言えず、独立した方法や手法が並存している形になってしまっている。この関係を修復するためには、やはり進化経済学の手法の基礎というものを今後形成していく必要があるのではないか。その基礎付けを学ぶことで文理双方が知識を共有できるような教科書的存在が必要なのではないか。</p>
11	2005/08/29 16:46	<p>これからの学問です。</p>
10	2005/08/25 17:26	<p>10年たってもまだ熱気がある不思議な学会。しかし、まだまだ年季が足りない。経済学者の大転換と人文学研究者の自己変革が起きるまで(あと20年ぐらい後か)存続させるべきだろう。</p>
9	2005/08/12 18:35	<p>進化経済学の</p>
8	2005/08/09 14:25	<p>コミットメントを感じている会員は何人いるんでしょう？ 殆どの会員がメイン学会の練習に使ってませんか？</p>
7	2005/08/01 12:18	<p>私自身は進化経済学は、思想や抽象論よりはむしろもっと実用、応用、具体的政策提言を目指すべきであると考えます。そうした点から考えれば、経済発展や技術進歩、それと密接に関わる都市集積、産業集積といった分野は、進化経済学が本来もっとも実用上の力を発揮し得る分野の一つである。しかし、そうした分野はこの学会では、幾分脇に追いやられている感がある。</p>
6	2005/07/29 10:36	<p>多様性をみとめる学会であってほしい。</p>
5	2005/07/24 16:38	<p>技術革新に関する議論が大幅に退化してきている。 Freemann,Rosenberg 的アプローチのみならず、Nelson-Winter 的研究からも離れて行っており、海外研究者との接点が作れない状況に陥ってしまって、もはや絶望的に思える。</p>
4	2005/07/22 00:34	<p>進化経済学の多様性が失われて行きつつある点を懸念します。</p>
3	2005/07/20 17:38	<p>再定義によって幾つかの機軸を打ち出すことは重要だが、多種多様な学派の混沌こそが進化経済学会の独自性ではなかろうか。あるひとつの学派への収斂・同質化はマクロ経済指標のみならず学術的な成長や進化も阻害する要因であると思う。</p>
2	2005/07/18 10:36	<p>主流派と意思疎通可能な言語・ツールを用いる必要があるように思える。マーシャルの分類で言えば短期の分析しかできていない主流派経済学と一線を画しつつも、意思疎通可能なツールを保持する必要があるだろう。</p> <p>理系の経済学教育の必要性、文系の理系的素養醸成が必要。現状では理系と文系が混ざっているという利点を生かし切れていない。進化経済学会には「豊かな知識に裏打ちされた経済思想の伝統」と「新たなツールを持っているが、どうしていいか分からない人々」が混在している。前者には後者の鋭利な理論的</p>

		武器を、後者には経済思想の理念を与えることで、主流派とは一線を画した上で学問的・政策的寄与が可能になると思う。
1	2005/07/18 02:02	<p>そろそろ転機に差し掛かっていると考えている。</p> <p>学会員の重複が見られる社会・経済システム学会は、創立から最初の10年は比較的順調であったと思われるが、その後停滞期に入ってしまった。この学会は、創立から20年が経過したが、役員やアクティブメンバーの世代交代が進まないまま、「高齢化」が着実に進んでいる。若い世代の台頭なくして学会の活性化はありえない。社会・経済システム学会がこのように停滞しているのは、(1)若い世代の再生産を欠いていた、(2)システム論以外に明確な固有の方法論を欠いており、しかもこのシステム論さえ学会員に共有されていたとはいえ、それゆえ意味あるハイレベルな議論が喚起されにくい2点にあったのではないかと考えている。</p> <p>さて進化経済学会の場合、社会・経済システム学会と比較して、若い世代の再生産については多少は進んでいるように見える。これは好ましいことであろう(もっとも、相変わらず「進化経済学」でポストを得ている者がいないのは憂慮すべきである。また全国レベルではなく京大の院生に偏重しているのが気になる)。他方の方法論であるが、社会・経済システム学会と比較して、固有の方法論が学会員のなかで共有されていない傾向が強い。</p> <p>以上をまとめていえば、進化経済学会の見通しは、それほど明るくない。このまま行くと10年後(創立20年時)には、現時点よりも会員数は減少しており、アクティブメンバーの世代交代も進まない可能性がある。つまり「代わり映えしないメンバーばかり」という事態である。このような事態を避けるためには、「進化とは何か」という固有の方法論の確立が欠かせないのではないかと考えている。</p>